

水 稲

育苗準備とジャンボタニシ発生地の対策

◆種籾の準備

早植栽培では3月下旬～4月上旬に育苗を始めます。早目の準備を心掛けましょう。普通植・晩植栽培も一月遅れて同じ内容で行います。

- ①種籾量は3kg/10a必要とされています。
- ②予め脱芒機で籾の芒を除去します。
- ③塩水選は充実不十分な浮き籾を除去します。塩水の比重調整は表-1と図-1のとおりです。塩水選後は水洗いし塩分を流してください。
- ④種籾は網袋にゆったり入れます。満杯に入れると消毒ムラや浸種中の吸水ムラを生じます。
- ⑤種子消毒はスミチオン乳剤 10ml+テクリードCフロアブル 50ml+水 10lを基準に消毒液を調整し、網袋に入れたまま24時間浸漬します。

消毒後は自然に水切りし、直ぐ浸種しない場合は、風乾し浸種まで保管します。

- ⑥浸種は $100^{\circ}\text{C日} \div \text{水温} = \text{浸種日数(基準)}$ とします。少ないと発芽が揃い難くなります。

◆育苗箱・培土の準備

必要箱数 18～22箱/10a(稚苗・中苗)

培土量 3.5l/箱×18～22箱/10a

を目安とします。

◆育苗器の点検(早植栽培)

育苗器は育苗を開始するまでにサーモスタット等正常に作動するか事前に確認しましょう。

表-1 塩水の調整 (水 10l当たり)

区分	比重	食塩では	硫安では
うるち	1.13	2.0kg	2.8kg
もち	1.08	1.2kg	1.5kg

比重	1.00	1.08	1.10	1.13
----	------	------	------	------

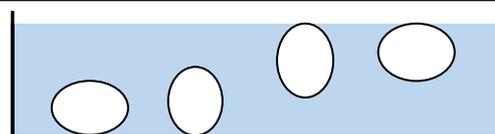


図-1 鶏卵による比重調整法

ほ場準備と普通植・晩植栽培のジャンボタニシ対策

◆荒起こしは2月末までに行うことが望ましいです。まだの田では“わらゴールド”を散布して早急に済ませましょう。耕耘した田は排水溝を必ず設置してください。

◆ジャンボタニシ対策(3～4月頃)

冬季対策に加えて次の取組を実行し被害を軽減しましょう。

- ①ロータリー耕を行い貝の損傷に努めます。
- ②水路掃除等の際に貝を損傷・捕殺します。
- ③農機具は作業後土を除去して移動します。

野 菜

ハウスとうがらし類の植付初期管理

◆ハウス果菜類の温度・水分管理

3～4月に万願寺とうがらし・伏見とうがらしの定植が行われます。植付前の地温確保と定植後の蒸し込みで根付き(活着)と初期生育を促進します。

活着を早め、順調なスタートが第一です。

また、近年は温度変化が大きいので体感や経験に

頼らず温度計で確認して管理してください。

17℃以下の低温や35℃以上の高温は受精の異常に伴う乱形果や生育不良の原因になります。温度は、この範囲内になるよう晴天日の被覆の開閉は、ハウス内温度を確認しながら日々の気温上昇と日射の強まりに配慮してください。午前の開放は徐々に

早く、夕方の閉鎖は徐々に遅くなります。温度管理用の温度計は直射日光を避け、夜間の最低温度、日中の最高温度が測れる最高最低温度計を設置してください。

ハウス栽培のキュウリ、トマトも温度の若干の違いはありますが、同様のことが言えます。

畝の水管理は過湿や乾燥を避け適度の水分を保つことが大切で、定植後の蒸し込み期が過ぎれば畝溝に常時湛水することなく、畝頭の水分が乾かない程度に管理することが順調な生育に繋がります。土質や排水性で異なりますが、畝溝が浅い場合は水が溜まらないよう灌水量に注意しましょう。

◆病害虫対策

◎病害：曇天で気温の低い日が続く多湿状態になると白絹病や灰色かび病が発生しやすいので注意が必要です。甘長とうがらしの白絹病には発病初期にリゾレックス水和剤の株元散布が、灰色かび病はカンタス DF、シグナムWDGの散布が有効です。

管理面では換気と保温を適切に行い長時間の低温多湿環境を回避することがポイントになります。

畝間灌水は短時間に行い畝溝に湛水しないよう留意して青枯病、萎凋病の発生を予防しましょう。

◎害虫：ハウス果菜類ではアブラムシ類・アザミウマ類・コナジラミ類が発生し始める時期です。

早期発見と初期対策が重要で、コナジラミ類、アブラムシ類には黄色粘着板(テープ)が、アザミウマ類には青色粘着板が効果的です。いずれも早期発見用には入口付近・中央・奥に6～10枚/3a程度設置します。発生確認後は発生状況に応じて10～20枚/aに増設します。部分発生の場合は、発生部分に集中配置すると捕殺とまん延防止の効果が高まります。

発生初期ならばコルト顆粒水和剤やモベントフロアブルの全面またはスポット散布も効果が期待できます。なお、農薬の登録適用があっても有効な薬は少ないので、多発した場合は普及センターやJAの指導を受けてください。

発生が少ない場合は黄色粘着トラップの設置と合わせ、抵抗性の発現や使用制限のないオレート(気門封鎖剤)、粘着くん(固着剤)、ボタニガード、ゴッツA(天敵菌)を使用してください。

農薬等を使用するときは、必ず使用基準(適用・使用倍率・使用可能時期・使用回数)や使用期限などラベルの記載を確認してください。

茶 樹

3月の茶園防除

◆防霜対策

防霜ファンの点検、高棚の補修は、3月上旬に完了し、防霜運転に備えましょう。

◆病害虫防除

3月は1番茶芽に対する農薬使用を最小限に抑える重要な防除時期です。特に、カンザワハダニやチャトゲコナジラミは1番茶芽に発生すると品質低下が大きいので必ず防除し、新芽への農薬散布が少ない「清浄な茶生産」に努めてください。

1 カンザワハダニの萌芽前防除

ここ数年のように2月の気温が高めに経過した場合は、越冬成虫は休眠から覚め産卵開始する時期が早まります。更に、3月の気温が高めに経過すると茶芽の萌芽が早まるので防除時期も早める必要が生じます。桜の開花情報や気象予報と推移に細心の留意をしてください。

3月10日頃には産卵が始まると見られますので遅れないよう防除することになります。

平坦部と山間部では5～10日の差あるのでできればダニの状態を確認して下さい。

3月の始めには京都府病害虫発生予報を支

店に連絡しますので参考にしてください。

表2 カンザワハダニ防除農薬

サンマイト F 1000倍	被覆 14日前/2回以内
バロック F 1000～3000倍	被覆 14日前/1回以内
マイトクリーン F 2000倍	— 14日前/1回以内

(注) 農薬名末尾のF=フロアブル剤

2 クワシロカイガラムシ

・チャトゲコナジラミの防除

クワシロカイガラムシやチャトゲコナジラミの発生園を対象にプルートMCを購入していて、未散布の場合は遅れないよう散布します。

3 チャノコカクモンハマキ対策

フェロモン剤(ハマキコンN)の設置を予定されている場合は、自然仕立て園では3月下旬～4月上旬に、はさみ摘み園では、番刈直後から設置します。これの設置は面積のまとまりがある茶園団地で共同設置がより効果的です。

地区の生産組合で相談の上広域設置に努めましょう。